

ファミリー

月曜トレンド 火曜くらし 水曜 健やか 木曜 シニア 金曜 混性・兼う



【プロフィール】1945年生まれ。九州大医学部卒。福岡教育大教授。専門は精神医学。昨年出版した著書「母さん父さん、楽になろう～幼老共生のすすめ」(三五館)の主張を実践するため、この月、仲間とともにNPO法人「幼老共生推進プロジェクト」を旗揚げした。

「家族のかたち」という視点から「世帯をながめると、奥の先に目立つのは規模の変化だ。大家族から、父+母+子というトライアングルへ。成長と進歩が第一義とされた時代と歩調を合わせるかのこ

とく、「若い」が家庭から排除されてきた。もう一度、新しいスタイルでお年寄り子どもを育らしの中心に置いてみては。碓浩 さん五五五が提唱する「幼老共生のすすめ」だ。(聞き手・岩田直仁)

福岡教育大学教授 碓浩一さん

家族システムは「限界に達した」と断言する。

一九九六年から三年間、「ウイグル民族と日本の子どもの生活環境」をテーマに比較研究を行った。

それが今じゃ、加齢とともにも人間としての価値が高まるんじゃない子どもにと、極言す。それは、そういう感覚を持つれば社会的には「邪魔な存在」になっていく。そんなふうには、「若い」を見る

ことができない。

子どもにしろだらけの老人の写真を見せて印象を聞くと、総体的な答えは「3K」ですよ。きたない、臭い、気持ち悪い。「若い」

五五年の国勢調査までは「世帯平均ほぼ五人の規模だったが、都市部を中心に核家族が急増。碓浩一さんはこの核家族という

精神科医としていろんな子どもと接してきたけど、人間関係が楽じゃない子どもが増えてきた。「お母さん、お父さん、子ども」とい

幼と老を真ん中に

三角形に閉じこもっているから、子どもがつかえる人が少ないのは当然です。それに、ムカツク・キレルという身体感覚でしか、自分の不快感を表現できない子どもも増えている。

「幼老共生」なんて言うより越えてきた体験と「知恵」を総体として「若い」としてとらえれば、「若い」が子どもの成長に与える肯定的な影響はすくなく大きいです。だから僕は「幼と老」を真ん中に置く「幼老共生」を訴えざるを得ない。と、いつてもウイグルのような農村社会に戻るわけにもいかない。

経済成長期の社会って、はたは忙しい人が中心だったわけですよ。でも将来の幼老共生社会は、ゆったりペースが基本ですよ。

家族のかたち

「核家族はもう限界」